

但馬

ペーパーマルチ農法を学び、専用の田植え機を運転する但馬農業高校生＝養父市八鹿町小山



雑草防止 水田に紙

但馬農高生、農法学ぶ

県立但馬農業高校（養父市）の農業科2年の8人が21日、雑草を防ぐため水田に紙を敷きながら苗を植える「ペーパーマルチ農法」を学んだ。同農法で無農薬の米作りに取り組み養父市紙マルチ栽培米部会（西田健次部会長、8人）の指導を受け、同市八鹿町小山にあるメンバーの小林治平さん（61）の水田で、専用の田植え機を使って田植えを体験した。

生まれた歴史などを説明。「完全無農薬で、米の中でも最も高く農協が買ってくれるのでやめられない」と話した。小林さんは「今日、使用する紙は40日で溶けて肥料になる。消費者の安心安全への志向が高まるのでやる意味がある」と語りかけた。

同農法の草分けで、耕作する5分のほぼ半分是同農法による稲作が続いている西田部会長（86）が冒頭、鳥取大や農機メーカー、製紙会社などの協力で同農法が

続いて、幅190センチの紙がセットされた田植え機を小林さんの指導で運転。初めて運転したという野村健一君（17）は「まっすぐ進むことやUターンなどが特に難しかった」。村崎将太郎君（16）は「大変だと思っただけ、農薬を使うよりはいいかな」と話した。（甲斐俊作）